



すずしろ

～開拓・発展・完成～

7月 第3号

令和7年7月18日

開進第四中学校だより

校長 田邊克宣

『 3分の1を終えて 』

4月の始業式・入学式から早3か月がたちました。

この間、本校3大行事の一つである運動会への取組を通して、開四中生は大きく飛躍を遂げました。

個人として、あるいは仲間とともに、競技、係、応援等自分の役割に一生懸命に取り組んだ者。その中で、最後まで諦めない気持ちの重要さを実感した者。負けて悔しい思いをバネにすると宣言した者。結果に至るまでの過程に充実感・達成感を覚えた者。あるいは、普段話したことのない級友と初めて言葉を交わし、自分では気付かなかった言葉かけをもらって、人間関係を広げ、深められた者。さらには、地域の人たちへの感謝にまで思いを馳せられた者。一人一人の思いの輝きが、作文を通して伝わってきました。

競技であるから勝ち負けはもちろん大事ですが、そこに留まることなく、真剣に参加したからこそ得られた気付きの数々は、生徒たち一人一人が行事を通して実体験した深い学びとして、それぞれの心にしっかりと刻まれました。

運動会は、実は嫌いと言う生徒も少なくありません。それが今回、運動が得意な者も、苦手意識のある者も、多くの生徒が自分なりにそれぞれの立場で精一杯取り組み、そして、なにより楽しむことができました。まさに運動会の「革命」です。開四中生が主体的・意欲的にその革命に臨んだことがなにより素晴らしいことだと思います。そして、やっぱり苦手だなと感じる生徒たちには、それでもみんなと協力しながら取り組んだその姿勢を心より褒めたいと思います。

3年生は、皆が全力で楽しむという「運動会の進化形」を新たな伝統として残し、進路に向かっての取組にそれぞれが向かい始めました。2年生は、運動会の成功を礎として、続く鎌倉校外学習を立派にやり遂げました。同様に1年生のオーケストラ鑑賞教室は、往復のマナーも鑑賞態度も立派なものでした。形は違えど、それぞれ次の活動につながり、生かされていることが、開四中生の成長の証です。

さて、これから44日間の夏休みとなります。

やりたいこと、やらなければならないこと、どうでもいいこと、そのどれもに、生徒諸君は、一人一人自分で取り組んでください。公平に与えられた時間をどう使うかは、自分次第です。よく考え、時には何も考えず、さらにじっくり自分自身と向き合ってみるのも、今の君たちにできる大切な時間の過ごし方です。

「自分とは～」といった哲学的なことについて思いを巡らせてみるのもよいでしょう。簡単には答えの見付からないことをあれこれと考えてみることもまた、面白いものです。

その中で、もし、「ちっぽけな自分」に気付いてしまったら・・・。「あのコはあんなにすごいのに、自分なんて」という思いにとらわれてしまったら・・・。そうした自己嫌悪とでもいうべき思いは、まさしくそれが自分の中にある「**向上心**」だと思ってください。

「自分なんて」という思いは「こんな自分ではまだまだだ」「よりよくなりたい」という意識の裏返しであり、それは、より高みを目指す向上心に他ならないのです。その気持ちこそがバネとなって、個人を成長させる強い原動力として働くのです。少しややこしいけれど、そうした一見マイナスに感じられることも全部ひっくり返して、君たち自身がかけがえのない存在であるということを決して忘れないでください。正解のないこと、あるいはどれも正解であることを考え、悩むことは、君たちが確かに生きている証であり、そこに生きる価値があるということをお忘れなく。生きて、考え、悩む、君たち一人一人が、大切な存在なのです。

考えすぎてどうにも煮詰まってしまったり、あるいは自分だけでは解決できそう

にないことがあれば、友達のことも含めて、迷わず先生に相談に来てください。開四中の先生たちは、必ず真剣に話を聴きます。そして一緒に考えるから、安心して頼ってください。

では、暑い夏を、熱く、厚く過ごして、新学期にまた皆で会いましょう。

保護者、地域の皆様には、夏休みの間、開四中生の見守りをどうぞよろしくお願い申し上げます。

炎暑を工夫で乗り越えて、健康第一にどうぞよい夏をお過ごしください。

【 情報モラル教室 第2部 保護者向け 】

7/15（火）に実施した同教室には、保護者13名のご参加があり、「SNS利用に伴う危険性」について有意義な話し合いが持たれました。

30年前に中高生がPHSを使い始めた当初から、子供たちを狙った犯罪行為が発生し、学校としても警察や通信業者と連携しながら、よりよい使い手となることを前提として、被害防止のための取り組みを数十年間にわたって続けてまいりました。

現在では、スマホやタブレット等を媒介として、子供たちを被害者としてしまうだけでなく、より巧妙な手口をもって、加害者とさせてしまう事案も出てきております。

子供たちを犯罪の被害者・加害者とさせないためには、学校による啓発活動・注意喚起・生活指導だけでは不可能です。子供たちを守ることができるのは保護者だけです。

どうかお子様のスマホ等の使い方について、この夏休み中に一度、本人を交えて話し合う機会を設けてくださるよう、お願いいたします。

開四中生の安全と、まっすぐな成長を願って。